



平成 23 年 2 月 25 日

各 位

会 社 名 株式会社 **MORESCO**
代表者名 取締役社長 赤 田 民 生
(コト'番号 5018 東証第一部)
問合せ先 広報室長 田 中 真 人
TEL 078 303 - 9058

MORESCO 中期経営計画(2011～2013 年度)について

この度、当社グループ中期経営計画のローリングを実施し、2011年度から2013年度までの3年間を対象とした MORESCO グループの中期経営計画を策定しましたので、その概要についてお知らせします。

1. 中期経営ビジョン

「小さくとも世界にきらりと光を放つ MORESCO グループ」

- 水と油と高分子のスペシャリストとして社会に貢献する -

2. 中期経営方針

- 1) 時代の潮流を見据え、事業展開をスピードアップする
 - 2) 成長分野において世界に通用するオンリーワン製品を開発する
 - 3) 得意領域での強みを生かしグローバルに事業展開する
 - 4) 生産プロセスの継続的な革新によりコスト競争力を強化する
 - 5) グループ内外企業と連携し、ビジネスチャンスを広げる
 - 6) 多様な人材が織り成す活力ある組織を目指す
 - 7) コンプライアンス・リスク管理を充実し、ステークホルダーの信頼を高める
- (以上は昨年度発表と変更ありません。)

3. 中期経営計画

3.1 中期経営計画の基本戦略

海外戦略

当社事業の主たる需要分野である自動車、二輪車産業で成長が続く中国、タイ、インドネシアおよびベトナムへの重点的取り組みを行い、各地域の経済環境を見据えたスピーディーな事業展開を行います。また米国においても新たに米系ダイカスターへの市場拡大を進めるなど、事業基盤の強化に向けた取り組みを加速します。ブラジル、インドでは将来に向けた市場開拓を進めます。

新製品開発

1) 環境関連分野

自動車関連部品の製造工程で重要な役割を担う特殊潤滑油分野では、省資源、省エネルギーの実現を目指します。ロングライフでリサイクルが可能な難燃性作動液や少量塗布で優れた離型性や潤滑性を発揮するダイカスト用潤滑剤などの開発により、国内および北米、アジアへの展開を図ります。

溶剤を含まず環境負荷軽減に寄与するホットメルト接着剤分野では、自動車内装用を主とする反応型ホットメルト接着剤で、その耐熱性をさらに向上し、これまで使用されなかった部位への展開を図り、低VOC化に貢献します。

2) 情報関連分野

ハードディスクドライブの需要は新興国を中心に今後も高成長が持続すると予想されます。高度な次世代記録方式を支える潤滑システムへの対応に向け新しいコンセプトの表面潤滑剤の開発を進めています。また、ハードディスクドライブ関連分野の裾野を広げ、基板研磨用クーラントや動圧軸受用潤滑剤など、重要な役割を担う潤滑剤を総合的に開発します。

3) エネルギーデバイス分野

ホットメルト接着剤で培った高分子材料の変性技術や配合技術をベースに、有機ELや太陽電池に代表されるエネルギーデバイスの長寿命化やコスト低減に寄与する各種デバイス用封止材料の開発を進めます。

製造設備の革新と海外生産体制の強化

抜本的な生産プロセスの革新による品質の安定と生産効率の向上により、コスト競争力を強化します。また海外拠点での生産能力拡大を進めるとともに最適生産体制の構築を目指します。

人材育成

持続的成長を可能にするため、グローバルな事業展開を支える人材を育成し、海外ネットワークを充実します。

3.2 売上高、利益計画（連結）

（単位：百万円）

	2010年度見込	2011年度	2012年度	2013年度
売上高	16,500	18,110	19,630	21,210
営業利益	1,340	1,460	2,120	2,660
経常利益	1,450	1,600	2,220	2,760
当期純利益	920	1,000	1,420	1,770
経常利益率	8.8%	8.8%	11.3%	13.0%

注) 2010年度見込は当中期経営計画発表日現在の業績予想値です。

4. 事業戦略

4.1 事業戦略（各部門概要）

特殊潤滑油部門

主たる需要分野である自動車産業においては、中国や東南アジアを中心とした新興国での生産台数の増加が見込まれます。国内トップシェアの難燃性作動液、ダイカスト用潤滑剤を始め、水溶性切削油剤等を拡充した海外販売網に乗せ積極的な販売展開を図ります。

一方、国内自動車生産では大きな伸びは見込まれませんが、基盤技術に立脚した環境にやさしい潤滑剤の開発により、シェア拡大に取り組みます。

昨年度から展開している冷熱媒体（ブライン）部門では新製品開発に注力すると共に、海外拠点での生産の検討を開始します。

合成潤滑油部門

主力製品である高温用合成潤滑油は、自動車電装部品向けの高温用軸受けグリースの基材として使用されており、高いシェアを有していることから継続的な需要の拡大が期待されます。さらに、電子機器用などの用途に向けて当社独自の新合成油の開発と商品化をスピードアップし高付加価値製品の比率を高め収益性のさらなる向上を図ります。また、新規用途の開発と既存分野製品の海外展開を図ります。

一方、ハ - ドディスク表面潤滑剤は、ハードディスク駆動装置の大容量化技術の開発加速に伴い、これに対応できる新潤滑剤を市場投入し売上拡大に努めます。また次世代メディア用潤滑剤の先行開発を進め、新機種の認定を目指します。

素材部門

主力製品である流動パラフィン、リチウムイオン電池の生産向け用途で継続した需要の伸びが期待されます。一方、これまでの主な用途である化粧品やポリスチレン向けは成熟した市場であり安定供給に努めます。

製造面では、コスト競争力の向上と品質の安定を図るため、設備・工程の改善を推進します。

ホットメルト接着剤部門

ホットメルト接着剤は溶剤を含まず環境負荷軽減に貢献できる接着剤として需要が拡大しており、近年の環境問題である C への対策として需要増加が期待される自動車内装用を主とする反応型ホットメルト接着剤の拡販を推進します。さらにラベル等の粘着材分野においても高機能商品の開発により収益性の改善を目指します。

主要用途である大人用紙おむつ向けは、堅調な需要が見込まれており、省エネルギーなどの顧客ニーズに対応した低温塗布型ホットメルト接着剤等により売上拡大に取り組みます。

4.2 部門別売上高の計画（連結）

（単位：百万円）

	2010 年度見込	2011 年度	2012 年度	2013 年度
化学品事業	16,440	18,050	19,570	21,150
特殊潤滑油部門	6,710	7,540	8,370	9,140
合成潤滑油部門	1,350	1,490	1,730	1,850
素材部門	3,450	3,510	3,660	3,760
ホットメルト接着剤部門	3,570	4,130	4,360	4,660
その他	1,360	1,380	1,450	1,740
賃貸ビル事業	60	60	60	60
合計	16,500	18,110	19,630	21,210

注) 2010 年度見込は当中期経営計画発表日現在の売上高予想値です。

5. 参考情報

当中期連結利益計画の基礎となっている当社個別の中期利益計画は下表の通りです。

(単位：百万円)

	2010年度見込	2011年度	2012年度	2013年度
売上高	13,860	15,150	16,150	17,300
営業利益	890	1,000	1,450	1,880
経常利益	940	1,150	1,580	2,000
当期純利益	580	730	1,010	1,280
経常利益率	6.8%	7.6%	9.8%	11.6%

注) 2010年度見込は当中期経営計画発表日現在の業績予想値です。

以上